

平成27年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	分析機器エキスパート(P-DEX)養成事業	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	SVBL	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	繊維学部	
実施責任者(所属)	小西 哉 (SVBL)	
取組の目標	学生が主体的に分析機器・加工機器の動作原理・操作方法を習得できる環境を整備する。学生が“教える事で学ぶ”Peer 教育を実践することで、実践的に社会人としての基礎力を向上させる環境を整備する。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	1. 走査型電子顕微鏡(SEM)、表面プラズモン共鳴測定装置(SPR)、液体クロマトグラフ質量分析装置(LC-MS)を主体的に学ぶ学生を支援し、それぞれの技能レベルに達した学生を輩出した。 2. 月度報告会、技能検定、成果報告会を実施し、学生の情報発信スキルが向上した。 3. SEM および LC-MS の体験講座を開催し、各キャンパスから参加者を募集した。 4. 青少年のための科学の祭典に出展し、小・中学生にサイエンスの面白さを伝えることができた。 5. SEM 写真コンテストを実施し、主体的に SEM の操作技術が向上した。 6. 学外の技術セミナーに参加し、最新の技術について学んだ。	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった	(そう評価する理由) 本年度は SEM 班が 6 名、LC-MS 班が 3 名、SPR 班が 1 名で活動し、学生が主体的に設定したテーマで活動を行った。技能検定に全員が合格し修了した。SEM と LC-MS の体験講座を開催し、LC-MS 講座に 11 名(教育学部 4 名, 農学部 2 名, 理学部 2 名, 繊維学部 3 名)、SEM 講座に 11 名(共通教育 4 名, 教育学部 1 名, 繊維学部 6 名)が参加した。工学部で開催した科学の祭典に出展し、SEM で撮影した画像のパズルとサーモグラフの体験を実施した。SEM 写真コンテストに 30 件の応募があり、優れた写真を表彰した。日本顕微鏡学会が主催する SCAN TECH 2015 に 5 名の学生が参加し、最新の技術について学んだ。 (今後の展望) 好奇心を持って取り組んだ結果、SEM の操作技術が向上したことから、日本顕微鏡学会の写真コンクールへの応募や、データの 3D モデル化および 3D プリンタでの造形などのアウトプットを充実させる。装置の操作方法を動画などのコンテンツとして作成する。